

平成29年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	職員研修に要する経費	会計	款	項	目	多額 経費
		一般	9	1	1	
政策	23安全に暮らせる社会システムをつくります	担当課室	消防総務課			
施策	234消防力の強化	担当課室長	松本 禎久			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	消防の任務を遂行するため、必要不可欠となる知識を修得するため、計画的に職員研修を実施し、人材育成に取り組むこととする。 退職者の増加を勘案した、体制強化を継続的に進めていく必要がある。	③平成29年度に取り組む改革・改善内容	消防力維持のため、計画的に職員研修を実施していく必要がある。
②①に基づく取り組み結果	今後数年間における消防職員の退職者増加を勘案しつつ、研修派遣者を選考し、人材育成に取り組めた。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	消防吏員	意図(対象をどうするのか)	複雑多様化する消防業務に対応するため、高度な専門的知識や技術を修得する。
②事務事業の概要	消防職員として業務遂行上必要な専門知識及び技能を習得するため、消防大学校等の各種研修所に派遣する。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	災害件数の増加、複雑多様化する災害への対応や高度な救急処置が要求され、専門的な知識、技術を持つ職員の養成により安心して暮らせる消防体制が望まれている。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成28年度の事業の成果	消防職員30人を研修派遣し、知識と技能の向上を図った。				
②成果を表す指標	指標名称	平成26年度	平成27年度	平成28年度	算定根拠
	i 派遣計画者数/派遣者数	100	100	100	% 業務取得
	ii				
iii					
③事務事業のコスト	平成27年度決算	平成28年度決算	平成28年度決算(事業費)の主な内訳		平成29年度予算
事業費(千円)	6,492	4,213	金額(千円)	内容	4,876
国支出金(千円)			2,467	消防学校等負担金	
県支出金(千円)			1,260	技能講習等負担金	
市債その他(千円)			481	旅費	
一般財源(千円)	6,492	4,213	5	報償費	4,876

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	災害の増加及び複雑多様化に対応するため、継続的に知識及び技術の修得が必要である。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価 6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	専門的な知識や技術は、外部機関による取得以外に方法はなく、救急救助体制の確立には必要不可欠である。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成28年度の計画	平成28年度事業費の状況(単位:千円)				
	計画事業費	予算額		決算額	
②計画に対する事業実績	0	当初		0	H27からの繰越
		H27⇒28繰越			
③達成状況		補正			現年分
④未完了・非着手の理由			流用・充当		
	平成29年度への繰越額(単位:千円)				

平成29年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	消防車両更新事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	9	1	3	○
政策	23安全に暮らせる社会システムをつくります	担当課室	消防総務課			
施策	234消防力の強化	担当課室長	松本 禎久			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	本市の地域実情に見合った車両及び資機材を検討し、より迅速かつ的確な活動が出来る車両を更新整備する。	③平成29年度に取組む改革・改善内容	本市の地域実情に見合った車両及び資機材を検討し、より迅速且つ、的確な活動ができる車両を更新整備する。
②①に基づく取組み結果	検討会を開催し、現場の意見を取り入れながら、本市に適した車両及び資機材を決定した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	消防本部及び消防署の管理する車両	意図(対象をどうするのか)	車両更新計画に基づき、車両を更新する。
②事務事業の概要	消防活動を維持するために必要な、消防用自動車及び車両積載品を更新整備する。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	複雑多様化する災害が増えていることから、安全に暮らせる社会システムへの要望が高い。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成28年度の事業の成果	水槽付消防ポンプ自動車を購入した。					
②成果を表す指標	指標名称		平成26年度	平成27年度	平成28年度	算定根拠
	i	車両更新率	100	100	100	車両更新計画
	ii					
	iii					
③事務事業のコスト	平成27年度決算	平成28年度決算	平成28年度決算(事業費)の主な内訳		平成29年度予算	
事業費(千円)	73,465	46,630	金額(千円)	内容	39,443	
国支出金(千円)	15,749	13,508	45,879	備品購入費	14,549	
県支出金(千円)			716	手数料(AVM移設他)		
市債その他(千円)	21,000	29,100	9	保険料(自賠償保険)	21,600	
一般財源(千円)	36,716	4,022	26	公課費(重量税)	3,294	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	鎌ヶ谷市消防用自動車更新計画に基づき更新しているが、消防力の整備指針改正等を踏まえ、本市の車両台数、更新計画を継続的に検討する必要がある。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価 6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	市民の安全安心のため消防用自動車の更新は、継続していかなければならない。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成28年度の計画	消防車両の更新。	平成28年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額		決算額			
②計画に対する事業実績	くぬぎ山消防署の水槽付き消防ポンプ自動車を更新した。	47,248	47,248	当初	47,248	46,630	H27からの繰越	0
				H27⇒28繰越	0		現年分	46,630
③達成状況	完了			補正	0			
④未完了・非着手の理由				流用・充当	0			
		平成29年度への繰越額(単位:千円)				0		

平成29年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	消防本部庁舎建替事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	9	1	3	○
政策	23安全に暮らせる社会システムをつくります	担当課室	消防総務課			
施策	234消防力の強化	担当課室長	松本 禎久			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	倉庫棟及び外構工事を実施し、本事業を完了する。	③平成29年度に取組む改革・改善内容	消防本部庁舎建替工事は完了したが、家屋事後調査委託結果に基づく、対象家屋の物件補償契約を完了する。
②①に基づく取組み結果	倉庫棟及び外構工事は完了したが、物件補償契約が完了しなかったため、事業完了には至らなかった。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	消防本部庁舎	意図(対象をどうするのか)	消防本部庁舎の建替え
②事務事業の概要	耐震性能に優れた消防本部庁舎に建替えることにより、災害活動拠点としての機能を確保する。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	災害対応の中核を担う消防本部庁舎の建替えを行うことにより、震災等の災害時において確実な対応が可能となり、市民が望んでいる消防力の強化を図ることができる。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成28年度の事業の成果	平成28年7月末に倉庫棟が完成した。						
②成果を表す指標	指標名称		平成26年度	平成27年度	平成28年度	単位	算定根拠
	i	事業進捗率	77	89	100	%	業務取得
	ii						
	iii						
③事務事業のコスト	平成27年度決算	平成28年度決算	平成28年度決算(事業費)の主な内訳		平成29年度予算		
事業費(千円)	108,939	125,419	金額(千円)	内容	1,654		
国支出金(千円)			112,932	工事請負費			
県支出金(千円)			10,591	委託料			
市債その他(千円)	96,000	105,600	1,846	補償補填及び賠償金			
一般財源(千円)	12,939	19,819	50	使用料及び賃借料	1,654		

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	近隣家屋の事後調査は完了しているが、対象家屋の住民に物件補償として金銭による補償をしなければならない。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	建替工事は全て完了したが、建替工事に伴う物件補償が完了していないため。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成28年度の計画	倉庫棟及び外構工事を完了する。	平成28年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額		決算額			
②計画に対する事業実績	倉庫棟及び外構工事を完了した。	37,430	132,421	当初	37,430	125,419	H27からの繰越	94,601
				H27⇒28繰越	94,601			
③達成状況	未完了			補正	0		現年分	30,818
④未完了・非着手の理由	建替工事に伴う物件補償契約が完了しなかったことから、事業完了に至らなかった。			流用・充当	390			
		平成29年度への繰越額(単位:千円)				1,654		

平成29年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	予防業務に要する経費	会計	款	項	目	多額 経費
		一般	9	1	1	
政策	23安全に暮らせる社会システムをつくります	担当課室	予防課			
施策	234消防力の強化	担当課室長	矢ノ目健二			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	住宅用火災警報器普及調査の未実施及び未設置住宅を中心に継続的に調査を実施するとともに、設置済み住宅における維持管理の周知及び広報を実施する。	③平成29年度に取り組む改革・改善内容	住宅用火災警報器普及調査の未実施地区への訪問調査及び維持管理啓発を継続的に実施する。
②①に基づく取り組み結果	住宅用火災警報器普及調査の未実施地区の訪問調査と併せ、維持管理啓発を実施した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	市民・事業所・建築物 危険物施設	意図(対象をどう するのか)	①市民の防火意識の高揚 ②防火管理に係る認識及び技術の向上
②事務事業の概要	火災予防を推進するため、消防訓練の指導や住宅用火災警報器の設置PR、建築確認時の消防設備の設置指導や検査、立入検査を行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	住宅用火災警報器の普及率は継続的に調査を実施した結果、普及率は年々上昇している一方で、条例施行から10年が経過する設置済住宅への維持管理啓発及び広報を実施する必要がある。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成28年度の事業の成果	春季・秋季の火災予防運動期間中の広報活動や、火災予防ポスター展等の火災予防啓発活動を実施することにより、火災件数が減少した。 また、住宅用火災警報器の訪問調査を継続的に実施し、普及率が1.4%上昇した。				
②成果を表す指標	指標名称	平成26年度	平成27年度	平成28年度	算定根拠
	i 火災予防ポスター掲示	53	53	57	枚 業務取得
	ii 消防同意数	115	77	102	件 業務取得
	iii 住宅用火災警報器普及率	65	70.1	71.5	% 業務取得
③事務事業のコスト	平成27年度決算	平成28年度決算	平成28年度決算(事業費)の主な内訳		平成29年度予算
事業費(千円)	2473	2653	金額(千円)	内容	2894
	国支出金(千円)		139	火災予防ポスター	
	県支出金(千円)		414	消防用備品	
	市債その他(千円)				
	一般財源(千円)	2473	2653		2894

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	住宅用火災警報器の設置後、10年を経過する住宅が増えてくることから、機器の更新について啓発する必要がある。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価 6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	2普通	
③上記評価の理由	住宅用火災警報器未調査地区の訪問調査と併せ、維持管理啓発を実施した。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成28年度の計画	平成28年度事業費の状況(単位:千円)				
	計画事業費	予算額		決算額	
②計画に対する事業実績	0	当初		0	H27からの繰越
		H27⇒28繰越			
③達成状況		補正			現年分
④未完了・非着手の理由	流用・充当				
	平成29年度への繰越額(単位:千円)				

平成29年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	警防業務に要する経費	会計	款	項	目	多額 経費
		一般	9	1	1	
政策	23安全に暮らせる社会システムをつくります	担当課室	警防課			
施策	234消防力の強化	担当課室長	佐藤俊一			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	継続的に講習会を実施することにより、講習修了者を増やす。	③平成29年度に取り組む改革・改善内容	継続的に講習会を実施することにより、講習修了者を増やす。
②①に基づく取り組み結果	継続的に講習会を実施することができた。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	市民・市内事業所の従業員	意図(対象をどうするのか)	市民に心肺蘇生法、AEDの使用方法、応急手当の方法の普及啓発を図り、有事の際にしっかりした応急手当ができるようになる。
②事務事業の概要	救急車到着までの間、現場に居合わせた人により効果的な応急手当が実施できるよう、市民及び各種団体を対象に救命講習を実施する。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	AEDが一般市民にも使用可能になったことにより、初期の救命処置が注目されるようになった。心肺蘇生法のガイドラインの変更により、実施方法の変更、講習項目が細分化され、今後、更なる受講者数の増加が見込まれる。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成28年度の事業の成果	市広報紙、ホームページ等で地域住民に参加を呼びかけ、消防本部で普通救命講習Ⅰ(一般市民向け:成人を対象)・Ⅱ(一定頻度者向け:成人を対象)・Ⅲ(一般市民向け:小児・乳児を対象)を44回実施し、611人が参加、また上級救命講習(一般市民向け:成人・小児・乳児を対象)を2回実施し、32人が参加した。						
②成果を表す指標	指標名称		平成26年度	平成27年度	平成28年度	単位	算定根拠
	i	普通救命講習修了者数	697	782	643	人	業務取得
	ii						
	iii						
③事務事業のコスト	平成27年度決算	平成28年度決算	平成28年度決算(事業費)の主な内訳			平成29年度予算	
事業費(千円)	13,231	14,836	金額(千円)	内容		18,197	
国支出金(千円)			1,999	救急活動消耗品			
県支出金(千円)							
市債その他(千円)							
一般財源(千円)	13,231	14,836				18,197	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	継続的に講習会を開催し修了者を増やしているが、更なる受講者の拡大のため効果的な広報活動等の実施を検討する。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	継続的に取り組み検証し、対応することが安全に暮らせる社会に繋がる。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成28年度の計画	平成28年度事業費の状況(単位:千円)					
	計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	0	当初		0	H27からの繰越	
		H27⇒28繰越				
③達成状況		補正			現年分	
④未完了・非着手の理由			流用・充当			
	平成29年度への繰越額(単位:千円)					

平成29年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	防火水槽用地購入事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	9	1	1	○
政策	23安全に暮らせる社会システムをつくります	担当課室	警防課			
施策	234消防力の強化	担当課室長	佐藤俊一			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	平成28年度新規事業のため、前回掲げた内容なし。	③平成29年度に取り組む改革・改善内容	平成28年度で事業が終了のため、なし。
②①に基づく取り組み結果	平成28年度新規事業のため、取り組み結果なし。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	防火水槽用地	意図(対象をどうするのか)	借用し防火水槽を設置していた土地を購入するもの。
②事務事業の概要	千葉県企業庁から借用していた防火水槽用地を購入し、継続的に防火水槽を確保する。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	防火水槽用地を購入することで、消火活動に重要な消防水利として継続的に確保できること、及び借地料が不要となる。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成28年度の事業の成果	千葉県企業庁から借用していた防火水槽用地26.25㎡を購入し、継続して防火水槽を確保した。						
②成果を表す指標	指標名称		平成26年度	平成27年度	平成28年度	単位	算定根拠
	i	防火水槽用地購入			26.25	㎡	業務取得
	ii						
	iii						
③事務事業のコスト	平成27年度決算	平成28年度決算	平成28年度決算(事業費)の主な内訳		平成29年度予算		
事業費(千円)		1,150	金額(千円)	内容	0		
国支出金(千円)			1,150	防火水槽用地購入			
県支出金(千円)							
市債その他(千円)							
一般財源(千円)		1,150			0		

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	なし					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	1終了
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	借用していた防火水槽用地を購入し、消防水利を継続的に確保した。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成28年度の計画	千葉県企業庁より借用していた防火水槽用地の購入。	平成28年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額		決算額			
②計画に対する事業実績	防火水槽用地26.25㎡を購入した。	1,150	1,150	当初	1,150	1,150	H27からの繰越	0
				H27⇒28繰越			現年分	
③達成状況	完了							
④未完了・非着手の理由		平成29年度への繰越額(単位:千円) 0						

平成29年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	消火栓改修事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	9	1	1	○
政策	23安全に暮らせる社会システムをつくります	担当課室	警防課			
施策	234消防力の強化	担当課室長	佐藤俊一			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	該当なし	③平成29年度に取り組む改革・改善内容	経年劣化によりボルトが腐食し、破損の危険がある消火栓7基のうち、2基の消火栓の改修を行う。
②①に基づく取り組み結果	改修計画を作成し、優先度の高い消火栓2基の改修を行った。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	消火栓	意図(対象をどうするのか)	経年劣化により破損の危険がある消火栓を改修する。
②事務事業の概要	経年劣化により破損の危険がある消火栓7基を、4ヶ年に分け優先度の高いものから計画的に改修を行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	消火活動に欠かせない消防水利について、有事の際の使用に支障がないよう今後も維持管理を行う必要がある。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成28年度の事業の成果	改修計画を作成し、優先度の高い消火栓2基の改修を行った。					
②成果を表す指標	指標名称		平成26年度	平成27年度	平成28年度	算定根拠
	i	改修完了消火栓			2基	業務取得
	ii					
	iii					
③事務事業のコスト	平成27年度決算	平成28年度決算	平成28年度決算(事業費)の主な内訳		平成29年度予算	
事業費(千円)		3,486	金額(千円)	内容	4,420	
国支出金(千円)			3,486	消火栓改修工事		
県支出金(千円)						
市債その他(千円)						
一般財源(千円)		3,486			4,420	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	現在使用不能としている消火栓について、早急に改修を行う必要がある。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価 6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	消火活動に欠かせない消防水利について、今後も維持管理を行う必要がある。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成28年度の計画	消火栓2基の改修。	平成28年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額		決算額			
②計画に対する事業実績	消火栓2基の改修を行った。	4,446	4,446	当初	4,446	3,486	H27からの繰越	0
				H27⇒28繰越			現年分	3,486
③達成状況	完了			補正				
④未完了・非着手の理由				流用・充当				
		平成29年度への繰越額(単位:千円)		0				

平成29年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	消防団運営に要する経費	会計	款	項	目	多額 経費
		一般	9	1	2	
政策	23安全に暮らせる社会システムをつくります	担当課室	警防課			
施策	234消防力の強化	担当課室長	佐藤俊一			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	消防団施設の維持管理及び、団員確保のための広報活動の拡充を図る。	③平成29年度に取り組む改革・改善内容	消防団施設の維持管理及び、人員確保と装備の充実化を図る。
②①に基づく取り組み結果	消防団広報誌また、各イベントを活用し、団活動PRIにより広く広報した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	消防団員、消防団施設、消防団車両	意図(対象をどうするのか)	災害活動に関する消防団員の環境整備及び消防団施設の機能維持管理。
②事務事業の概要	各種災害に出動して中心的な役割を果たす消防団を維持するため、計画的な運営を図るとともに、環境を整備する。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	産業・就業構造の変化等による被雇用者(サラリーマン)の増加と若年層の流出、また、消防団員の高齢化がさらに進み、入団者の減少による定員割れが予想される。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成28年度の事業の成果	地域防災力の要である消防団について、活動への理解や協力を得るため消防団広報誌を作成し、市内全戸配布を行った。						
②成果を表す指標	指標名称		平成26年度	平成27年度	平成28年度	単位	算定根拠
	i	消防団員の定数に対する充足率	93.4	90.4	90.4	%	業務取得
	ii	機械器具点検	480	480	480	人	業務取得
	iii						
③事務事業のコスト	平成27年度決算	平成28年度決算	平成28年度決算(事業費)の主な内訳		平成29年度予算		
事業費(千円)	27,433	27,145	金額(千円)	内容		29,495	
国支出金(千円)			6,850	消防団員報酬			
県支出金(千円)			7,865	費用弁償			
市債その他(千円)			1,089	健康診断手数料			
一般財源(千円)	27,433	27,145	2,060	消防団運営交付金		29,495	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	環境整備及び広報活動の拡充等を行い、団員の減少に歯止めをかけ人員を確保する。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	危機管理体制や地域防災力の向上など、防災に関する市民ニーズは上昇傾向にあり、今後、更に高まると予想できるため、継続して行う必要がある。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成28年度の計画	平成28年度事業費の状況(単位:千円)					
	計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	0	当初		0	H27からの繰越	
		H27⇒28繰越				
③達成状況		補正			現年分	
④未完了・非着手の理由			流用・充当			
	平成29年度への繰越額(単位:千円)					

平成29年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	消防団装備品整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	9	1	2	○
政策	23安全に暮らせる社会システムをつくります	担当課室	警防課			
施策	234消防力の強化	担当課室長	佐藤俊一			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	消防団の装備品について「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」による消防団装備品の更新及び日本防災協会認定品への防火衣の更新を行う。	③平成29年度に取り組む改革・改善内容	消防団員の防火衣について安全性、活動性に優れた防火衣への更新を行う。
②①に基づく取り組み結果	消防団員の活動服について、機能性及び識別性に優れたものに更新した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	消防団員、消防団装備品	意図(対象をどうするのか)	消防団装備品について機能性等に優れたものに更新する。
②事務事業の概要	消防団員が効果的な活動を行うために、消防団装備品の充実強化を図る。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	地域防災の中心的役割を担う消防団の活動は、今後さらに重要となることが想定されることから、引き続き消防団装備品の充実を図る必要がある。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成28年度の事業の成果	耐切創性手袋を160双及びトランシーバー24機を配備した。					
②成果を表す指標	指標名称	平成26年度	平成27年度	平成28年度	単位	算定根拠
	i 消防団活動服の更新数		326	0	着	業務取得
	ii 耐切創性手袋の配備数		0	160	双	業務取得
iii トランシーバーの配備数		0	24	機	業務取得	
③事務事業のコスト	平成27年度決算	平成28年度決算	平成28年度決算(事業費)の主な内訳		平成29年度予算	
事業費(千円)	4,788	806	金額(千円)	内容	6,000	
国支出金(千円)			472	耐切創性手袋		
県支出金(千円)			334	トランシーバー		
市債その他(千円)	3,000					
一般財源(千円)	1,788	806			6,000	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	消防団装備品整備事業として計画的に装備品を整備する必要がある。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価 6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	消防団装備品の充実強化に関しては、平成27年度から計画的に行っており、今後もこれに係る手続きを進める必要がある。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成28年度の計画	耐切創性手袋及びトランシーバーの配備。	平成28年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額		決算額			
②計画に対する事業実績	耐切創性手袋160双、トランシーバー24機を配備した。	980	980	当初	980	806	H27からの繰越	0
				H27⇒28繰越			現年分	806
③達成状況	完了			補正				
④未完了・非着手の理由				流用・充当				
		平成29年度への繰越額(単位:千円)		0				